

## ○10番（古川盛義君）〔登壇〕

おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、10番古川の一般質問を始めさせていただきます。

きょうはまだ、御船が丘小学校からお見えではないみたいでございまして、早速質問に入りたいと思います。

11月21日に武内小学校で行われました、あの反転授業に対して、数点お尋ねをいたします。

武内小学校ではこれまで、iPadの授業で効果的に授業を進められて、成果を上げられております。毎年度、公開授業を実施していただき、県内外から300名以上の参観者をいただいております。先生方の努力に対し、推進校として、指導方法の提案ということに対しては、十分な成果が得られているものと考えております。

先月21日に、これまでのiPadの活用とは少し違った反転授業の公開が行われ、多くの教育関係者や報道関係の参観を招いたところでございます。子どもたちがiPadを家に持ち帰り、予習をしている様子がテレビで放映されました。次の日は新聞にも大きく取り上げられたところでございます。そこで今回、武内小学校で公開されました反転授業とはどのような授業なのか、まずお尋ねをいたします。

## ○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

## ○代田教育監〔登壇〕

（モニター使用）ただいま質問にありました、反転授業はいかなるものかということについて、私のほうから御説明申し上げます。スライドのほうを見ていただきながら御説明させていただきますと思います。

いわゆる従来の授業と反転授業がどういうふうに違うのかという御説明ですけれども、一般的な学校の授業というのは、先生が生徒に対して講義をする、伝える、教えるというのが一般的です。そして生徒は、その時間にわからなかったことや知識を定着させるために、家に帰って宿題、復習をするというのが従来の授業でした。

ところが反転授業というのはまず自宅で予習をしていきます。従来、自宅で予習する場合にはですね、教科書読んでこいとか、資料集読んでこいということがあったんですが、この反転授業は可能になったのが、タブレット端末を持ち帰って、動画とかアニメーション、そういった非常に学習意欲のわくもので予習ができるということが、大きなきっかけになりました。

そして、じゃあ学校では何をするのかというと、あらかじめ知識があるところ、また、わからないことを前提にして、学校では教え合ったり、学び合ったり、話し合い活動を中心にやっっていこうと。こういった授業スタイルのことを反転授業というふうに一般的に呼ばれて

います。

この授業方法ですが、日本で公教育で取り入れるのは武雄市で初めてになるんですが、実は2000年からアメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア等ではすでに取り入れられている学習方法です。こういった学習方法が急激に普及し始めたのは、大きくは落第率の低下。大幅に落第率が少なくなったという実証研究がなされてきたということが大きいと思います。

さらに、落第率にとどまらず、非常に学力の向上にも貢献するといったものが、実際の研究成果として認められてきた。これが大きな反転学習の効果だというふうに思います。

じゃあ何でこういった学習方法が、効果が上がってきたのか。この図を見ていただきたいと思います。これはアメリカの国立訓練研究所というところが、人間の知識というのはどういう形で記憶が定着してるのかということの研究した「ラーニングピラミッド」。知識の記憶率の、どうやったら記憶率が高まるのかという図表です。

一番上の――上にいくほど、人間の定着率はなかなか定着しないという指導方法。そして、一番定着するのは一番下になるわけです。

平均記憶率、一般的な記憶率が5%。100人をして5人くらいしか定着しないというのが、いわゆる先生から一方的な講義を聞くというのは、ほとんど記憶にないということです。

次は一人で読んでいく。次は、ここはちょっとタブレットの有効なんですけど、動画とか、視聴覚教材で読む。ここは定着率が大体20%くらいまで上がってきます。実験をしたり、そして劇的に半分を超えてくるのは、人と、まあ人間は社会的な動物ですから、人と教え合ったりとか、学び合ったりする。こうすると急激に記憶力が、記憶が定着してきます。

そして最後に、一番記憶が定着するのは、これは教えるほうなんですよね。教えることの経験が、記憶が定着するということで、よく反転学習をするとですね、できる子はどうなるんだというような質問もあるんですが、できる子はさらに記憶が定着するという効果も認められています。

じゃあ、武雄では、こういった教育先進諸国での知見をいかして、どんなふうにスタートするのかというお話を次にさせていただきたいなというふうに思います。ふだんの学校の先生が、どんなふうに学習指導要領をもとにですね、授業を組み立てているかというのがこの図表です。(発言する者あり)

#### ○議長（杉原豊喜君）

静かに。

#### ○代田教育監（続）

もう少し、お時間いただきたいと思います。

従来の授業は、学習指導要領に定められているように、まずは授業で目当ての確認をしましょう、そして一人一人が目的を持って自分で調べましょう、そしてグループ全体で話し合っ、練習問題をやって、まとめて、次の予習の復習をしましょうと。予習の狙いを確認し

ましよう。こういったのが授業のやり方です。

どうしてもですね、こういう従来の授業をしていると、学校でこうやっててもですね、まどめの時間とか、次習、次の時間にやることというのが、時間がなくなってしまふ。これ、どうしても現実問題として起こっている学校の課題でした。復習の問題までなかなかいけない。

武雄での反転学習というのは、ここの、従来、目当ての確認とか、一人調べまでのところを自宅でやってきましょう。なぜかというのですね、やはり、一人一人学ぶスピード、理解するスピードが違ふところ、もちろん早く理解できる子どももいれば、なかなかで理解できない子どももいる。ここの一人でやるところを家庭でやってこようというのが、武雄でやろうとしている反転授業です。

その一人調べを前提にして、学校では学び合い、教え合いをやり、さらに発展学習、予習での目当て、こういったものをしっかりやって、家での復習もしっかりできるように、こういった学習のサイクルをもっともっと整えていこうというのが、武雄式反転授業ということで、11月21日に行った武内小学校の反転授業も、ここの部分を家で、大体iPadで動画で7分ぐらい見るというスタイルで始めてました。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

10番古川議員

**○10番（古川盛義君）**

教育監は、就任早々、御答弁をいただきましてありがとうございます。

反転授業、これ今、図でわかったんでございますがね。どのようなことが子どもたちにとって、社会にとって期待できるのか。その点をちょっと御説明を願いたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

代田教育監

**○代田教育監〔登壇〕**

（モニター使用）子どもたちにとっては、2つ大きなメリットがあると思ってます。

1つは主体的。授業的に対して能動的。受けるんじゃなくて、主体的に学びができるという効果です。実際に、家庭学習のほう許可をいただいてですね、2つの子どもさんの家庭に行ってきました。この子がですね、なんて言ってきたか。「台形の面積の求め方がほかにもあるのか、あすの授業が楽しみです」。事前に学習して、どんなのがほかにもあるのかということで、こんな発言をしていました。もう1つ、女の子の家庭ですが、わからないところはストップして、自分のペースで勉強できると。実際に動画ですので、わからないところ止めて、戻したりできる。そうやってじっくりできるので、自分のペース、マイペース学習ができるのでいいということをやって、授業に臨むということが出来る。意欲的に、主体的に授業に

臨める。これが1番の大きなメリットだと思います。さらに、授業では、話し合い、学び合いを行いますので、やりがいがあるといった子どもたちの意見があります。

もう1つの大きな狙いは、これから子どもたち、21世紀を生きる子どもたちに必要だと言われているのが、協働的な問題解決能力と言われています。OECDやユネスコといった世界の教育機関が、これからの子どもたちには、そういった協働的な問題解決能力、話し合い、人の意見を聞いて自分の意見をしっかり持つ、そして話し合っ、またさらに意見をみんなが高めていくという能力がどうしても必要だというふうに、これは定義されている力です。こういった力を、小学生、中学生、こういった子どもの頃から、話し合いの時間を十分取ることによって、協働的な問題解決能力、こういったものをしっかりと育てていきたいというふうに考えています。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

社会的意義については、私からお答えしたいと思います。

公教育というのが今まで一律過ぎたと。言ってみれば金太郎飴ですよ。それで、金太郎飴に属さない、例えば、上のクラスの子もさんたちとか、あるいは、いわゆるそれについていけないお子さんたちですよ。というところが今まで公教育から、ともすれば、見放されていたところがあった。

それがあくまでも、先ほど代田教育監にもあったように、ある程度きめ細かくできるということと、もう1つ大事なものは、先ほど写真でもありましたように、家に戻って、くだらないテレビよりもね、あれなんですよ。iPadで、実際タブレットで、お父さんとかお母さんとか、おじいちゃん、おばあちゃんも一緒に見れるという効果。これも僕は大事だと思っていますので、まあ一石十鳥くらいだと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

iPadをですね、家に持って帰って予習をするわけでございます。家に持って帰って一人でやるわけでございますので、わかる子、わからない子、出てくると思います。学校で結局、みんなで話し合っ解決ができればいいんですが、理解できない子どもに対する対応はどのように考えておられますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

今、御質問にありました、どうしても家で予習ができなかったりとか、そういうお子さんたちというのは出てくると思います。

このタイミングが、やはり地域、家庭、そういったものを総ぐるみして、子どもたちを育てていくというところが必要じゃないかなというふうに思っていて、具体的には、放課後学習であったりとか、土曜日学習、こういったところで地域の方々、また、教員志望を目指す学生も含めてですね、そういったいろんな方が学校の間を使いながら、予習をサポートしていく。こういった社会的なセーフティーネットをつくっていく必要があると思います。実際にはまだそういったものが確立していないんですが、反転授業を進めていく上においては、そういったセーフティーネットを準備していくということも、とても必要じゃないかと考えています。

○議長（杉原豊喜君）

10 番古川議員

○10 番（古川盛義君）〔登壇〕

そのようなまとまりをですね、つくるのには相当な時間がかかると思うわけです。そういうことも必要であろうとは思いますが、そういうことが早くできることを願っております。

それからですね、予習する内容をですよ、タブレットに入れて持ち帰るわけでございますね。それを、内容といいますか、そのタブレットを誰がつくるのかと。市販のやつを使うのか、それとも学校の先生がつくられるのか。

今ですね、学校の先生、非常に忙しいわけですね。そういうつくる時間があられるのかどうか。まあ、先生方の負担にならないようにしなければならぬとは思いますが、その点いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

ただいまの御質問に関してですが、11月21日に行った研究授業では、もちろん授業自体は先生が主体的にコントロールすべきものだと思っておりますので、こういった事前の動画をつくればいいのか、これはすべて教員が、教師の人がコントロールしています。

ただ、作り込んでいるのはどういう人たちかということですね、実際に理科はニュートンプレスという科学雑誌の専門誌。そして算数のほうは塾が実際に作り込んでいます。

議員がおっしゃるようになりますね、やはり先生が全部動画までをつくっていたら、それは負担感も大きいし、なかなか継続しないと思います。そういった意味で言うと、こんな動画をつくってほしいというアウトソーシングをしながら、一緒にそういった知見を持つ。すでにその塾も、科学雑誌の企業さんもですね、素晴らしいコンテンツをお持ちなので、そういったものを修正しながら今回はつくっていますし、しばらく——来年度にあたってですね、

先生方がすごい負担になって、これをつくるために、本来の生徒と向き合う時間がなくなるとか、そういうことがないように配慮していきたいというふうに考えています。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

再三申し上げておりますけれども、もともと学校の先生って負担がものすごく大きいんですよ。例えば県の教育委員会に出さなければいけないペーパーであったりとかね、上野議員さんね。あるいは研修ですよ。多すぎ。それとあと、市の教育委員会に出すペーパーも多いし、もうみんなね、学校の先生って上ばっか向いてるんですよ、今。これ、非常に気の毒です。制度としてそうなるんで、これをあわせてね、今回我々としては、いろんな改革を進める上で、学校の先生の――きょうもお見えになってますけれども、負担をやっぱり減らすと。子どもに向き合う時間、あるいは学校にね、きちんといる時間というのを、体制的にね、もう1回ちゃんと見直そうというように思っていますので、これが一つの大きなきっかけになればいいなと思っています。

いずれにしても、これは再三申し上げていますが、全体の事務作業量を、絶対、抜本的に見直さないと、学校の先生たちが、本当に負担が大きすぎて、学校しょっちゅう僕まわっていると、すごくよく思うんですよ。その学校の先生の負担が子どもたちに伝播しているというのは否めない事実だと思いますので、これは徹底的にやっていきたいと、このように思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

10番古川議員

**○10番（古川盛義君）〔登壇〕**

市長の力強い改革の言葉をいただきました。先生方が子どもに向き合う時間が少しでも増えますようお願いをいたしておきます。

小学校からタブレットを使うわけでございます。例えばですね、小学校の3年生が今現在使っていると。4月からその子、4年生になるんですね。そしたら、今まで使っていた物を持ち上がるのか。それとも、昨年4年生が使っていた物をまた使うのかですね。そこら辺をですね、お尋ねをいたしたいと思うんですが。

私はですね、3年生のときに使いよったそのタブレット、そのまま4年生に持たせると。そしたら、毎年人数が変わりますよね。クラスの人数が。大きな学校は変わらないかもわからないんですが、小さなところは10年くらいの幅で増減があるわけです。そしたら結局、新しくまたそろえないかんのもあるでしょうし、また、余ったということもあると思うんです。

結局これはですね、武雄市の財源を使って購入するわけでございますので、なるべくならばですね、持ち上がると。小学校6年間、使える限り使うと、同じものをというのが、私は

いいと思います。それが物を大切に使うという精神にもつながるんじゃないかと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

古川議員、貴重な御意見ありがとうございます。

タブレット、配られたタブレットをどのように持ち上がってくるのか。これについては、4月までに教育委員会のほうで検討し、決定していきたいというふうに思ってます。非常に古川議員の視点は素晴らしいので、そういった皆さんの貴重な御意見をいただきながら、どうしたら子どもたちにとって一番いいのかということを考えながら、決定していきたいというふうに考えています。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

4月にタブレットが配布されるわけですが、今後、配付されるまでの手順、配布された後どうするのかというような予定がございましたらですね、御説明をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

今後のタブレット端末の導入のスケジュールですが、今決まっていることを申し上げたいなというふうに思います。

タブレット導入の決定に関しては、タブレット端末導入選定委員会というもので行います。実際にタブレット導入選定員は、ICTに関した有識者であったり、市内の学校の関係者、また、保護者の代表、教育委員会等で構成し、その選定委員会のほうで決まる形になります。それに対してプロポーザルを受ける予定になっています。

スケジュール的には、1月の下旬には選定委員会でプロポーザルを審議し、決定し、3月末までには納品、4月からはタブレット端末が使えるように。そんなスケジュールで考えています。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

子どもたちが、武内の小学校の子どもたちですね、非常にタブレットを使って楽しく授

業をしております。我々もそういう時代に生まれればよかったなど、楽しい授業を受けられたらもうちょこっとどがんじゃないかなと思うところでございますが……

〔市長「もう遅か」〕

もう遅かと市長から言われよりますので、遅いのはわかっております。

そしたら、教育の部分はこのくらいにいたしまして、次に入りたいと思います。

11月17日にですね、私、佐賀新聞の論説にですね、興味深い記事を見つけました。その一部でございますが、新聞の記事は小さいですが、こういうやつでございます。

知・徳・体・食のバランスが必要であり、正しく食する習慣がまず先にあるべきだと。いつのころからか、私たちは食育をないがしろにして、徳育よりも体育、体育よりも知徳という価値観にとらわれてきたと。これ、こう書いてあったんですがね。

私、やっぱし、これ正解だと思うんです。やはり食べることが一番だと私は考えます。そこでです。武雄市教育委員会では、5校時給食というのを実施されております。5校時給食の意義について、説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

昨年度、今年度、5校時給食ということで取り組んでおります。随分、食育進めてきてるつもりでありますけれども、以前、小学生、中学生、朝食をとってききましたかと言いますと、90%前後であります。

いろんな理由あるわけですが、1つ、朝食だけとりましてもそういうこともございます。それから、食育基本法を初め、いろんな法の整備もなされました。それから、指導要領等にも重視されているわけです。また、武雄市においても、食育課のほうで生涯食育の観点から強力に進めておられるわけです。

その児童生徒期の食育のあり方ということで、どうしたらこう強力に進められるかということを考えましたときにですね、5時間目の給食の時間を5校時と位置づけることで、子どもたちの学年発達段階に応じた指導ができるんじゃないか。そしてまた、栄養教諭という制度もできましたので、その先生方を中核にしてですね、食育の指導がさらに強化できるのではないかということで、5校時の給食を5校時給食として始めているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

私はですね、文科省が授業時間の確保ということ強く言っておるわけでございますが、5校時に1時間、給食の時間をその1時間取りますと、週に月火水木金と5時間増えるわけですね。ただ単にそういうことかなと思っておりましたが、今、教育長の答弁でそれじゃな

いということであつたわけですが。

では、5校時給食です。どのようなことをしておられるのか。まあ、その内容といひますかね、教えていただきたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

5校時給食では、先ほど言われましたように、授業時間数にはカウントいたしておりません。時間表の中で5校時のところを給食ということにしてゐるわけですが。

内容としましてはですね、これまで言われてもきておりますけども、マナーですね。学年に応じた指導として、学年なりのマナー、あるいは衛生に気をつけようとか、あるいは郷土の味に触れようとかですね。あるいは感謝して食べようとか。それを、月々の目標を決めまして、それを学年に応じて指導していくということ。

今、各学校、給食の時間御覧いただきますとですね、校長先生初め、全職員で指導に当たっていただいているというような状況でございます。

特に食につきましては、やはり家庭と連携しての取り組みということになりますので、家庭との連携。それからまた、武雄の場合でありますと、学校園などに非常に協力してもらつてますので、そういう場所とれる野菜の活用とか、あるいは生産者の方との交流とか、あるいは地場産物をできるだけ活用できるように、栄養教諭の先生に努力してもらつていてというようなことが、具体的な内容としてはそういうことになってまいります。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

ちょっとですね、私が給食のときにお伺ひしたときに、まあ、気になることということがありますので、ちょっと質問をします。

子どもさんの箸の持ち方が、非常にこう、なんかこう、変なんです。ちゃんと持てる子どもさんもいらっしゃいます。なんかこう、変な持ち方をした子どもさんもいらっしゃいます。

ちゃんとして食べるのが基本でございましょうが、学校ではですね、この箸の持ち方についての指導はどのようにされていらっしゃいますでしょうか。お尋ねをいたします。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

確かにですね、箸の持ち方、よくできない場合もあるわけでありまして。

先ほど申しましたように、学年段階によって、目標を持って指導する中でですね、より低学年のうちに、箸の持ち方については指導をしているというところがございます。マナーとしてもそうですし、あるいは、箸の持ち方によって食べやすい、食べにくいということも出てまいります。

低学年の学級活動等でもですね、あるいは、給食の時間ももちろんですけども、学級活動の時間とか、あるいは総合的な学習総合の中でも出てくる場合もございます。そのあたりも意図して、5校時給食も設定しているというところもございます。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

5校時給食のときに指導をとということでございますが、いろんな、武雄市内でもイベントが行われております。食育課ではですね、食育の箸の持ち方のマナーと申しますか、そのような部分に気付いたことなどございませんでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

（モニター使用）どうもすみません、手間取りまして。食育課のほうではですね、武雄の食育寺子屋実行委員会さんとかの協力を得まして、いろんな、さまざまな場所で食育の啓発を行っております。

これは先日、一汁三菜などの栄養バランスのとれた食育構成とか、食事と年中行事の密接な結びつきなどが大変世界に認められまして、和食がユネスコの無形文化遺産に認定をされました。私たちが慣れ親しんでいる和食文化と申しますのは、まさにお箸の、今先ほど議員さんのほうからお箸の持ち方ということで御指摘ございましたけども、お箸の文化でありまして、これは後世に残したい日本の美しい食事の作法だというふうに思っております。

いろんな場所で啓発をしているわけでございますけども、子どもたちがわかりやすく食育を啓発していくためにですね、教育実習生の協力も得まして、テーマを決めたポスターを製作をいたしております。これは手の洗い方についてですね、テーマにしたものです。これはお茶碗の持ち方をテーマにしたものです。これは、先ほどから出ております箸の持ち方、箸のマナーをテーマにしたものです。こういったものをですね、各学校では食事のマナー指導に、学校内に掲示をしていただいたりして、活用いただいているところです。

そのほかにもですね、これは子どもたちとか親を対象にいたしましてですね、食育まつりの中でお箸をつくったり、ゲームをしたりして、マイお箸づくりなどを楽しみながら、お箸の使い方を学んでいただきました。ここは、福山先生でございます、映られているのは。

そのほかに、毎年6月に父の日企画というのをしております。お父さんと一緒にうどんづ

くりをするわけですけども、その中でですね、お箸を――遊び道具、お箸を使った遊び道具を使ってですね、親子一緒にゲームをして、お箸で豆をすくい合うとかですね、そういったゲームをしながら、楽しくお箸の使い方を学んでいただいております。

箸を正しく持つことによって、食事をするときの姿勢も良くなるというふうに言われておりますし、食事のマナーといいますのは周りの人に不快感を与えない食事をするということ。要するに楽しむためのものだというふうに思います。今後とも、お箸の使い方に限らず、食事のマナーについてを、機会を捉えて啓発をしていきたいというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

10 番古川議員

○10 番（古川盛義君）〔登壇〕

いろんなイベントのごとに箸の持ち方、茶碗の持ち方というのを御指導いただいておりますということでございますが、まあ学校と一緒にしまして、ちゃんと持てるように御指導をお願いしておきます。

それと同時にですね、鉛筆の持ち方なんです。実は先日ですね、武雄北中と武内小学校と、それから武内保育園と、3カ所ちょっと見にまいりました。そして、校長先生からですね、許しを得まして、教室をこう回ったわけでございます。

約3割くらいの子どもが、鉛筆の持ち方がおかしいんでございます。回ってみて、こんなに多いとは、私思っていなかったんです。しかし、非常に多いんです。この鉛筆の持ち方ちゅうのはどのように指導をされているのかですね、まずお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

低学年の教科書には鉛筆の握り方、姿勢を含めてですね、指導するようになっているわけでありまして。

大体、鉛筆の持ち方が完成するのは、大体7歳くらいだろうというような言い方をされます。それで、御覧になった教室、何年生かわからないんですが、確かにですね、それ過ぎて、3年生、4年生以上になってもやっぱり握り方、1番多いのは親指でこう、親指が被さる書き方ですね。

もっと早く持たせたときに、例えば指の力がどうなのかと。弱いときに持たせたときにどうなのかちゅうような研究もあるようでありますけれども、やっぱり、その7歳ぐらいのところできちんと指導していくと、まあ低学年の間にですね。そういうことはやっているところでありますけれども、習慣づくとなかなか直らないという現状がございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私はね、これこそが家庭の出番だと思うんですよ。こんなのをね、その小学校とか保育園とか幼稚園とかね、行ってもね、もう直んないです、もう。僕、直らなかったですから、しばらく、本当。

ですので、これこそは家庭の問題だと思うし、ただしね、今の親御さんがそれじゃあできるかといったら、なかなかそれはおぼつかないところあるんで、これこそおじいちゃん、おばあちゃんの出番なんですよ。

それでもね、近くに、あるいは御家庭にいらっしゃらなかつたら、うちは松尾技監とかいますので。あるいは議員さんたちいらっしゃる。みんな箸の持ち方、大丈夫ですよ。大丈夫ですよ、副議長さんね。

ですのでそういう、これこそね、僕は2世代上の方々の出番じゃないかなって思いますよ。だから、これは——僕はこれ教育委員会と全然見解が違います。学校教育じゃなくて、これこそが社会教育、公民館の場であるとか、これこそ家庭の場だと、僕はそう思います。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

まさに家庭ですべきことなんでしょうが……

〔市長「そうです」〕

それができていないということでございます。（発言する者あり）

保育園で園長先生からお伺いしたときはですね、鉛筆を持つときに、あまり早く持たせると力がないから、ずっとこう回ってくると。親指が回ってくると。だから、一番最初に持たせるときに、あんまり早く持たせんほうがいいですよというような話でございました。それで、やっぱり親としてはですね、早く持たせたい、早く書かせたいということなんだろうと思います。

それで北中でですね、校長先生とお話しよって、こうやって持ちますとね、結局この芯がですね、見えないんだそうです。被さって。それで、横から見るんだそうです。姿勢も悪くなると。目もついでに悪くなるというような連鎖反応が起きるといようなことも聞きました。

姿勢を正しくして書きましようと言ったって、手が直らんと姿勢が真っ直ぐにならんわけですね。それで、市長が言われるように、持ち方は家庭でちゃんとさせるべきだというのは十分わかって質問をいたしております。

今、幼保小連携とか、小中連携とか言われます。その中でですね、少し考えたらどうかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

箸と鉛筆のところにちょっと時間を取りますけれども、借りてまいりました。（模型を示す）これが箸で。考えますとですね。見えますかね。

考えますと、この人差し指で鉛筆も箸も動かすわけでありますので——じゃあ、もう落とします。（笑い声）ちょっと持つといってもらって。（「個人的に指導ばしていっちょきんさい」と呼ぶ者あり）こうですね。これで、人差し指でこう動かすわけでありますんで、人差し指のと……（笑い声）こうですね。少し動いております、すみません。（笑い声）すみません。

言いたいことはですね、この箸のですね、この1本を取ればですね、鉛筆の使い方と一緒にわけですね。ですから、そういうことですね、これ取りますと、やっぱりこう、鉛筆の使い方になるわけでありますので。

そういうことで……

〔市長「気持ちちは伝わった」〕

1つはですね、先ほどちょっと箸のとき言いましたけども、やっぱり3回のうち2回は家庭。しかも、給食部分はそれよりもはるかに少ない、1年分より少ないわけですので。ですから、これはやっぱり家庭と一緒に進めていかないといけないことだろうと。

それから、鉛筆についてはですね、やっぱりその対応策、今まで長い間にいろいろ研究されていることもございますので、いろんなやり方で指導もしていくということも大事だと思います。

それと、最後におっしゃいましたけれども、今、市内の学校は腰骨を立てましょうということで、立腰教育をかなりの学級、学校で取り組んでもらっていますが、やはり姿勢でそこも、鉛筆も含めてですね、姿勢から良くしていくということも大事なことだというふうに思っております。そういう意味で、幼小中の連携も当然同じ考えで進めていくということで、進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

私ですね、あるとき、何の気なしにテレビを見よりました。そしたら、これ教育テレビやったと思いますが、習字の先生がですね、鉛筆の持ち方が悪い子はどうやって直すかという話をしておられました。

これはですね、ちゃんと持たせますと。そして、5センチぐらいの円をこうやるわけですね。これを1カ月くらい続ければ直りますよというようなことを言われよりました。興味深いなと思って見よりましたが、変に持ちますと、ここのこれが動かないんだそうです。手首

が、手首が動かないからひじが張ると、姿勢悪くなるという連鎖反応が起きるといふようなことも言われておりました。鉛筆の持ち方が悪い人は、ちよつとこう、丸い円を描いて練習をしてみてください。直るかもわかりません。

教育の問題はこの程度にいたしまして、次の飛龍窯祭りについてお尋ねをいたします。私の出身地でございます武内で毎年行われるわけでございますが、来場者がもうですね、多くて、武雄市の一大イベントとなってきた飛龍窯灯ろう祭りでございますが、これまでの実績を踏まえて、今年度開催についてどのような計画をお持ちなのか、お尋ねをいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

溝上営業部長

**○溝上営業部長〔登壇〕**

武雄の冬のイベントということで定着をしましてまいりました、飛龍窯灯ろう祭りにつきましては、約4,000個の灯籠と、約5万球のイルミネーション、これの光の祭典ということで、人気を博しております、前回3万人以上の来場者があったところです。

そういうところで、今回第6回目となりますけれども、灯ろう祭りを来年の2月8日、9日、この土日、2日間開催をいたしますけれども、今回のイベントの目玉といいますか、大きな変更点につきましては、とにかく飛龍窯での滞在時間を伸ばすためのいろんな仕掛けや、そういう工夫ということになります。

具体的に言いますと、大きく3点ございますけれども、まず1点目は、これまで前夜祭、本祭ということで、前夜祭は夕方から開催をしておりましたけれども、今回は2日間とも本祭ということで、開催時間を昼の12時から夜9時までということで、イベント時間を増やします。

そして2点目といたしまして、灯籠やイルミネーションの設置エリアを拡大いたしまして、会場内を回遊できるスペースを広げまして、見所を増やします。これに伴いまして、灯籠の数自体も昨年の4,000個から6,000個へ増やす予定です。

そしてまた、3点目といたしましては、2日間とも昼間からの開催ということになりますので、イベントといたしまして、武雄の匠たちによる体験コーナーを初め、黒牟田の物原山探訪ツアー、そういう特色あるイベントを企画いたしまして、来場者に楽しんでいただくよう準備を進めているところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

10番古川議員

**○10番（古川盛義君）〔登壇〕**

今年ですね、2月に、9日、10日の2日間、開催されたわけでございます。もう一番目立ったところというのは駐車場の混雑と、シャトルバスの渋滞でございました。これたぶん、私ですね、考えますに100%どうのこうのちゅうのは無理なんです。すべてのみなさんに満

足していただくちゅうのは無理なんです、昨年はずね、シャトルバスが両方から結局でずね——ぶつかるちゅうか、利用ができなくて、相当な間、その、車ができなかったということがございました。それで、その対策なりをどのように考えておられるか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

シャトルバスにつきましては、前回も増便をして対応をいたしましたけれども、どうしても一定時間にずね、お客さんが集中するというので、混乱を招いたところがございます。

そういう反省点を踏まえまして、今回の開催からシャトルによる送客方法を考え直しまして、基本的にお客さんの送客を会場周辺ではなくて、武雄温泉駅周辺から送客する方法に変えていきたいというふうに考えております。駅周辺に駐車場を確保いたしまして、お客さんにはできるだけJRを利用してもらうか、また、車の場合でも駅周辺の駐車場を利用していただけるよう広く周知を行いまして、輸送の効率化と待ち合い時間の短縮を図っていきたくて考えております。

ただ、これまでどおりです、会場周辺まで車で来られるお客さんも多いかと思っておりますので、そういう場合は今度できます、新しい、新武内公民館の駐車場の活用を含めまして、これまでの駐車場も確保して対応をする予定です。

そういうことで、シャトルバスの台数につきましても、今回大型バスをずね、前回は6台用意しましたけれども、今回3台増台いたしまして、大型バスを9台。そして市役所のマイクロバス3台。合わせて12台体制です、送迎を計画しています。特にまた、その大型バスもずね、通常のバスじゃなくてワンマンタイプで、乗り降りの時間の短縮のためにずね、ワンマンタイプの大型バスを導入する、利用する予定にしております。

またあわせまして、会場周辺でのずね、これまで案内とか交通移動のため配置しておりましたけれども、警備さんや係員の配置時間を特に早めまして、そういう形で受け入れ体制の強化を図って、少しでも混雑解消ができるように努めてまいりたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

道路の件でございますが、3月議会のときです、西ノ角の三差路の角切りはできないものかというお願いをしておりましたが、現在の進捗状況についてお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

(モニター使用) この交差点につきましては、今パワーポイントのほうで表示しておりますけれども、武雄のほうから伊万里へ行く道路のほうから、飛龍窯のほうへ入っていく市道黒牟田線の、ちょうどT字路になった交差点のところでありまして……(発言する者あり) この分につきましては、道路の幅が狭くてですね、特に一般通行はもとより、飛龍窯の……

[市長「あ、消えた」]

あ、すみません。

写真で見ますとこのような状態になっておりまして、今、飛龍窯のほうへ入っていく、あるいは出てくるときに狭くて、なかなか交通混雑をしているというふうなことで、シャトルバスの運行にも支障を来しているというふうなことで、交差点の改良が望まれておりましたけれども、古川議員さんの御尽力によりましてですね、地権者からおおむねの同意を得られたというふうなことで、交差点の改良を、今計画をしているところであります。

○議長(杉原豊喜君)

10番古川議員

○10番(古川盛義君)[登壇]

改良ができるということでございますので、1日も早い改良をよろしくお願いいたします。

これもですね、3月議会をお願いをいたしておりましたが、会場周辺にですね、イノシシが出没しまして、もう、ぼこぼこになすわけでございます。祭りのときはまた整地をしますが、先日も行きましたが、もうイノシシが掘りまくって、ぼこぼこでございます。

このイノシシ対策もですね、お願いをいたしておりましたが、今どのようになっておるか、お尋ねをいたします。

○議長(杉原豊喜君)

溝上営業部長

○溝上営業部長[登壇]

飛龍窯周辺にもですね、結構イノシシが出没をしております、安全対策上も問題がございました。そういうことで、飛龍窯の指定管理者でございますキルンの森運営協議会を中心にですね、地元武内町の区長会を初め、武内町民の方の皆様の協力を得まして、2日前になりますけれども、12月7日に約40名以上の方に協力をお願いしまして、公園の周囲500メートルにわたりましてワイヤーメッシュを設置をしたところでございます。おかげで、灯ろう祭りもですね、安心して開催ができますので、地元の皆様方の御支援に心より感謝を申し上げます。

○議長(杉原豊喜君)

10番古川議員

○10番(古川盛義君)[登壇]

ワイヤーメッシュを張っていただいたということで、イノシシも入ってこないと思います。

そこです。祭りを活性化させるためにですね、地元の協力体制など、どうしても必要になってくるわけでございます。その協力体制はですね、どのように考えておられるか。お聞かせいただきたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

溝上営業部長

**○溝上営業部長〔登壇〕**

これまでもですね、灯ろう祭り開催に向けては、地元武内町の区長会、自治公民館長会、そして体育協会を初め、消防団、あるいは各種団体の方々からですね、会場の設営なども準備から片付けまで御協力をいただいております。

また、婦人会やボランティアわかば会、またJ A武内女性部の皆さんには、会場設営の際の炊き出しから、お祭り当日も出店してもらうなど支援をいただいております。これ以外にもですね、武雄高校の野球部の皆さんには、ボランティアで灯籠の回収を手伝ってもらってますし、また地元の武内小学校ステージイベントではですね、武内小学校の和太鼓の演奏、あと武内保育園の荒踊り、そういうものを披露していただいております。

このように、飛龍窯灯ろう祭りではですね、地元の皆さんの協力なくしては成功いたしません。今回もまた、灯籠の数も増えてますけれども、そういうろうそくの設置など、作業をお願いするわけですが、今後も地元の皆様と連携を深めることが祭りの活性化につながると考えております。今後も、地元の皆さんと一緒にですね、武雄の冬のイベント、または冬の風物詩ということで、一緒に育てていきたいと考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

10番古川議員

**○10番（古川盛義君）〔登壇〕**

とにかく寒い時期でございますので、大変なんですけど、今年も、今年度の祭りが来年の2月の8、9ということでございます。一人でも多くの皆さんにおいでいただいて、喜んでもらえるよう武内町といたしましても努力をするつもりでございます。

御船が丘小学校の皆さんも、今、傍聴に見えておりますが、お父さん、お母さんと一緒に、ぜひ飛龍窯祭りにおいでいただけますようお願いをいたしまして、私の一般質問をこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

**○議長（杉原豊喜君）**

以上で、10番古川議員の質問を終了させていただきます。